ザルメン・ムロテック初来日
「ホロコーストの音楽」そして今
――友情と追悼の講演会・音楽会

今秋東京・福岡・広島・大阪にて、アメリカ合衆国を代表するニューヨークのイディッシュ劇場「フォルクスビーネ」の芸術監督兼イディッシュ語歌手のザルメン・ムロテック氏との対話の場をつくり、イディッシュ文化の担い手の声を聴く機会を設けました。杉原千畝が発行したヴィザにより上海・神戸経由で米国へと出国した父上、イディッシュ音楽を収集した母上のもと、幼少よりイディッシュ語と音楽を学び、現在、米国のショービジネス界で活躍する敬虔なユダヤ教徒である氏の経験を聴くまたとない機会です。ぜひご参加ください。（入場無料・事前申し込み不要・通訳有）

♦ 10月9日（水） 東京外国語大学 ♦

研究講義棟115教室　12時30分-14時10分（開場12時）

「ディアスポラ音楽の現在　ホロコーストの記憶とイディッシュ文化」

（ディスカッサント：二階宗人＋岩崎稔＋李孝徳　通訳：本橋哲也）

ザルメン・ムロテック　Zalmen Mlotek
ニューヨークに拠点がある国立イディッシュ劇場「フォルクスビーネ」Folksbiene の芸術監督。同劇場は現存するイディッシュ劇場としては世界最長寿（2年後の2015年には設立100周年を迎える）。氏はジュリアード学院やタングルウッド音楽センターなどで音楽を学び、バーンスタイン、メータ、レヴァインらに師事。1995年にはイツァーク・パールマンを交えたクレズマー・セッション「フィドラーの家で」In the Fiddler' s House を監督した（CD、ヴィデオはこのジャンルのベストセラー）。父の故ヨスル氏は杉原ヴィザで最終的にアメリカに逃れた難民で、妻ハナ氏とともにユダヤ音楽の研究と保存に生涯を捧げた。

写真：http://www.zalmenmlotek.com

主催：ザルメン・ムロテックさん招聘実行委員会

基盤研究 (A)「近現代世界の自画像形成に作用する《集合的記憶》の学際的研究」研究代表者：岩崎稔（東京外国語大学）

基盤研究 (B)「イディッシュ語文化圏における芸術活動の研究」研究代表者：圀府寺司（大阪大学）

基盤研究 (C)「アメリカにおける移民音楽の相互作用、東欧・南欧・（旧）オスマン帝国出身者を中心に」研究代表者：黒田晴之（松山大学）

協賛・お問い合わせ：みすず書房　TEL 03(3815)9181 / FAX 03(3818)8497 / kawasaki@msz.co.jp

東京外国語大学　♦JR中央線　「武蔵境」駅のりかえ、西武多摩川線「多磨」駅下車　徒歩5分（ＪＲ新宿駅から約40分）
♦京王電鉄　「飛田給」駅北口より多磨駅行き京王バスにて約10分　「東京外国語大学前」下車
http://www.tufs.ac.jp/access/tama.html